



飯南町「農林業定住研修制度」研修生

# 宇都宮 彰一 さん (39)

関西出身の宇都宮さん（大阪府寝屋川市出身）が飯南町に関わるきっかけは、24年8月、名古屋市で開催された新農業人フェアに参加した時でした。その会場で知り合った定住財団の担当者に「トマトを栽培したい」との思いを伝えたところ、飯南

町の農林業定住研修制度を紹介していただきました。会社勤めでしたが、

いずれは独立したいという強い希望を持っていま

したので応募し、同制度の研修生として採用されました。

宇都宮さんがトマトを選んだのは、

「ふるさとワークステイ」（農山漁村に滞在し地域住民と交流しながら、農作業や地域づくり環境保全活動などのボランティアを行う企画）で福井県にインターンしていた先輩を訪ね、いろいろと相談したところトマト栽培を奨められたのがきっかけでした。

現在は、飯南町の有限会社つがが農園（代表・景山林造）で農業知識や実習の基礎を学んでおり、ビニールハウス3棟（約10アール）の管理を任されています。

栽培しているトマトの品種



午前中は主に出荷作業をしている

は「桃太郎サニー」。早生で序盤に勢いがあり、大玉で秀品率が高い品種です。ただ、気を付けなければならぬのが早めの対応。夏秋トマトは成長が早いので対策が遅れると病気が蔓延してしまいます。防除、芽かきは遅れず入念に行い、アブラムシ、疫病は早期発見、早めの駆除に努めています。

今年度末までに就農計画書を作成し、2年目は認定就農者要件研修を

受け、研修終了後は就農支援システムを活用して就農する予定です。宇都宮さんは「多くの方にお世話になっていきます。今後は良いトマトを作って早く一人前になりたいですね。将来は、トマト栽培をしている人たちと切磋琢磨し、自分のような研修生を受け入れるよう成長したいと思っています」と強く語りました。

**就農して地域の農業のお役に立ちたい**



うんなん



トマトを収穫する喜びを実感している



# 飯南町「農林業定住研修制度」とは

飯南町では定住促進を「最重点プロジェクト」と位置づけ、県の総合窓口である（公財）ふるさと島根定住財団、町内外の団体・組織と連携しながら様々な取り組みを行っています。その一つ「農林業定住研修制度」は、U・Iターン希望者を対象に農業に従事し定住してもらい定住促進へ繋げようと設けた農業研修・助成等の制度です。今回この制度について運営する飯南町定住支援センター（飯南町役場産業振興課）定住支援員の烏田範昭さんに伺いました。

## 同センターについて

「飯南町定住支援センター」は定住支援員、定住相談員2人が所属し、定住に関する総合窓口として活動しており、県の就職相談会やU・Iターン等の全国各地で実施するフェアにブースを設置しPRしています。また、新規就農者支援や農業者への研修会を行ったり、空き家情報の発信等、人と

ひとの温かい繋がりがりや豊かな自然、土に寄り添う農的な生き方ができる飯南町を広くアピールしています。」

## 農林業定住研修制度について

「飯南町にU・Iターンを希望し専業農家に従事したいおおむね40歳までの方を対象に、2年間農業研修から就農までをサポートする制度です。研修では、農業知識を基礎から身に付けたたり、研修先にて実際の作業を通じて、施設園芸（野菜）・果樹等の基礎作業について学びます。策定した就農計画に沿った研修先での実務研修を行います。また、地域に早く慣れてもらおうと就農予定地域の住民との交流も行います。」

研修修了後の3年目以降は、町内の各地域や集落営農組織などの担



定住フェアなどで積極的に情報発信している

手・後継者として、新規就農者として農業に従事していただきます。

この制度は平成22年度から開始し、修了後3人が実際に農家として定住しています。また、現在は2人が研修中です。」

## 研修に関わる支援について

「研修1年目は、ふるさと島根定住財団の産業体験事業を併用し、研修期間中の2年間、月額15万円を支給します。また、U・Iターン者の住宅の確保についても、空き家情報等を利用しながら、就農計画にマッチングした情報の提供や支援を行っています。非農家である研修生が確実に就農できるように、研修修了生に就農地の確保や空き家情報の提供、就農に必

## 求めている人について

「今年度から、町内の方にも応募できるように対象を広げました。応募段階から定住後まで関係機関と連携を図りながら支援しています。地域に農家として貢献できる方、お待ちしております。」

要な施設整備費に関わる各種助成制度や利用のアドバイスや支援をします。」



飯南町の定住を支援する烏田さん(中)とスタッフ

農業をU・Iターン定住の鍵としている

